

「今どきの言葉」図鑑 ③

京都教育大学教授

もりやま

たくろう

森山 卓郎

やばい



時々、プラスの意味での「やばいっす」

「これ、やばいー」を「リアル」で聞くことがある。すくおいしいケーキを食べたときなど、「やばい！」と感嘆するのだそう。だ。「やばい」のもともとの語源は、「矢場」に形容詞化の「い」が付いたのかもしれないとか、いろいろ想像できるが、実はよくわかっていない。いずれにせよ、「何か問題がある」といった意味が本来の意味だ。

しかし、文化庁の「平成十六年度国語に関する世論調査」によると、十代後半では七割が「とてもすばらしい」の意味でも使うという。一方、五十歳以上になると、「すばらしい」という意味で「やばい」を

使う人たちは一割以下である。

なぜこうも正反対の意味になったのだろうか。おそらく、背景にあるのは、「問題に思えるほどすごい！」という大げさな程度表現の発想だろう。「おいしすぎる」や「おそろしくおいしい」などと似た発想といえる。自分が作った焼き鳥が、おそろしくおいおいしい、なんて言われたら、私なら逆立ちして喜びたくなるが、そんな感じに近そうだ。

だから、プラスの意味で「やばい」が使われるのも、基本的には程度がはなはだしい場合だけなのである。「やばい！」のような感嘆的な使い方が普通で、プラスの意味で使うときは「どちらかといえばやばい」などとは言わないようだ（四十人のクラスで三七人がそう答えた。九三パーセント）。

「新しい表現」を求めるパワーのすごさというか、発想の柔軟さというか、まあ、それにしても、紛らわしいというか、とにかく言葉の変化は、まさに「やばい！」の一言ですなっ。えっ？ どちらの意味の「やばい」かですって？

